

圭陵会FAXニュース

発行所:岩手医科大学圭陵会
 発行人:石川 育成
 編集人:酒井 明夫
 連絡先:TEL019-624-8386
 :FAX019-624-8380
 e-mail :info@keiryokai.gr.jp

第3号内容

- ・GFPを研究活用 再生医学に不可欠
- ・処方します「医療情報」岩手医大付属図書館
- ・医師定着へ授業料減免 岩手医大大学院
- ・スーパー特区 岩手医大の技術採択
- ・糖尿病発症リスク3倍 佐藤教授ら英誌発表
- ・がんの情報、悩み共有 盛岡にサロン開設へ
- ・眼球残し角膜摘出 岩手医大に新機器

H20.11.5
 岩手日報



蛍光顕微鏡でGFPマウスの細胞の確認をする岩手医大の沢井高志教授(奥)ら

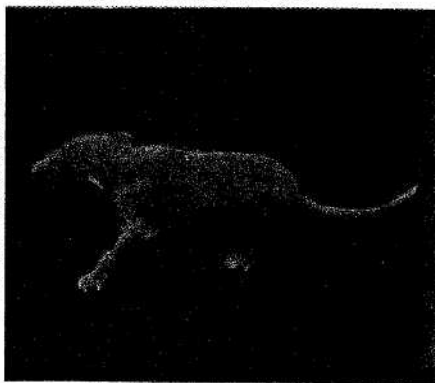
ノーベル化学賞 大いに研究活用

下村氏発見のGFP

岩手医大でも複数分野で 再生医学に不可欠

今年のノーベル化学賞を受賞する下村脩・米ボストン大名誉教授が発見した緑色蛍光タンパク質(GFP)を使った応用研究に、盛岡市内丸の岩手医大(小川彰学長)が医学部

岩手医大では四年ほど前からGFPを組み込んだ実験用の「GFPマウス」を大学内の動物実験センターで繁殖させている。GFPマウスを導入した石田陽治教授(内科学血液・腫瘍内科)は白血球や腎不全の研究に活用する。GFPマウスの骨髄を通常のマウスに移植し、細胞の緑色光を追跡することで、増殖や発達過程を見ることが出来る。石田教授は「心臓、腎臓などと骨髄細胞の関係を解明している。GFPは簡単に細胞に



岩手医大で繁殖に取り組みGFPマウス(生後3日目)。紫外線を当てると全身が緑色に発光する

の各分野で取り組んでいる。再生医学やリウマチなど活用範囲は幅広い。同大教授らは「医学分野での役割はさらに広がる」とGFPの威力を生かした研究の進展に期待する。

入れることができ、再生研究には不可欠」と話す。GFPはリウマチの病変をつくる細胞が、骨髄を起源とすることも証明した。現在、具体的な細胞の特定を進める沢井高志教授(先イオイメジックセンター)は、大脳皮質にある毛細血管の構成の解明にGFPを活用

用。「GFPはほかの研究に活用している細胞に影響を及ぼさない純粋で有用性の高い「マーカー」。研究の効率が上がった」と語る。岩手医大によると、今後の研究に期待を膨らませる。

圭陵会FAXニュース

圭陵会広報局では会員の相互理解を深めるために、岩手医科大学内の情報を「圭陵会FAXニュース」として配信致しております。圭陵会支部長におかれましては、圭陵会会員への情報連絡をお願いします。なお、圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。

圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp/>

平成22年3月に開催されます日本解剖学会総会(岩手医科大学が担当)の特別講演を下村先生にお願いしております。学会員以外の方の参加も可能ですので、ぜひご参加ください。詳細は学会開催近くになりましたら岩手医科大学HPに掲載されますのでご覧ください。

処方します「医療情報」

閲覧コーナーが充実 専門家が選択アドバイス

盛岡市内丸の岩手医大付属図書館(沢井高志館長)は、館内に医療情報コーナーを設置し、市民に病気や薬の情報を提供している。二百冊余りの本を自由に閲覧できるほか、雑誌や辞書、パンフレットなどを用意。より詳しく調べたい場合、図書館にある約二十六万冊の専門書の中から選ぶこともできる。日常生活に欠かせない医療の情報を、専門家が適切に選んで紹介する。

「市民に正しい知識提供」



スタッフがアドバイスも行う岩手医大付属図書館の医療情報コーナー

医療情報コーナーは二〇〇六年十一月に開設。同大の地域貢献や市民の医療情報ニーズの高まりなどを受け、サービスの充実を図った。

二階ロビーの一角にあるコーナーには、一般向けの医療図書約二百二十冊を用意。内科や整形外科など十六の分野別に配置している。本や雑誌、辞書などの資料は貸し出し不可で、その場の閲覧が条件。製薬会社が作製したパンフレットなどは持ち帰りできる。

目的の本が見つからないときは、スタッフがアドバイスする。例えば、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)は、該当する分野が複数にまたがるため、スタッフが利用者に合った資料を勧める。

専門書の紹介業務も実施。スタッフが利用者の希望を聞いて該当図書を選ぶ。館外への持ち出しはできない。

医療機関が病気などの情報を提供する例としては、〇四年に図書室を開設した県立中央病院(盛岡市)などがある。同病院の図書室は開設以来、利用者が増え続け、昨年は千九百九十八冊。患者ら市民の医療情報に対する要求は徐々に高まっている。

岩手医大付属図書館の菅原良子事務室長は「最近の患者は専門的な情報を求める傾向にある。世間にはいろいろな情報があふれているので、正しい情報を提供していきたい」と意欲を示す。

休館日は日曜日と祝日、年末年始、第二、三、五土曜日。開館時間は午前九時から午後

岩手医大付属図書館

五時まで(土曜日は正午まで)。問い合わせは岩手医大(019・651・5111代表電話)へ。

岩手医大大学院

岩手医大(小川彰学長)は二〇一〇年度から、一定の条件を満たす医師を対象に大学院(四年制、定員五十人)の授業料減免を行う方針を固めた。▽県内の病院に従事する▽医師不足が著しい診療科を選択する▽などが条件で、県内への医師定着を図る。減免額などの詳細は今後決める。大学院の在籍者は開業医などの社会人が七割以上を占め、日進月歩の医療技術や知識を学んでいる。医学部の定員増と合わせ、大学院制度を充実させ、地域医療の崩壊を食い止める。

医師定着へ授業料減免

県内従事者など対象

10年度から方針

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

岩手医大は医療の多様なニーズに応えるため、〇五年に大学院制度の一部を改革。それまでは特定の講座が中心だったが、外科系や内科系など、従来の体系にとらわれず、複合的観点で臨床医学研究を行う環境を整えた。

74・2%を占める。

国は深刻な医師不足を解消するため、医学部の定員増に乗り出しており、〇九年度は

実は全国的にも広がっている。岩手医大医学部教務委員長の佐藤洋一教授(解剖学第二講座)は

「医学部の定員を増やすだけでなく、その医師が岩手に定着することが大切だ。大学院のカリキュラムを充実させ、生涯教育の場を社会人にも提供していく」と話す。

盛岡市医師会の白井康雄会長は「医師のスキルアップを図る上で歓迎すべきこと。現場の医師は日々勉強している。あとは講義の内容がポイントになる。」と期待する。

外科学講座ホームページより

NEWS

2008.11.21

■ **岩手医科大学 外科学講座 が参画するプロジェクトが、
先端医療開発特区(スーパー特区)に採択**

政府は 18 日、研究資金の特例や規制を担当する部局との並行協議などを試行的
に行う「先端医療開発特区(スーパー特区)」の選定結果を発表し、再生医療など 5 部
門から京都大学の山中伸弥教授の「iPS 細胞医療応用加速化プロジェクト」をはじめ
24 件が全国の大学・企業などから採択されました。

岩手医大外科学講座が参画するのは、「国民保健に重要な治療・診断に用いる医
薬品・医療機器の研究開発部門・消化器内視鏡先端医療開発プロジェクト」における
「腹腔鏡下ドナー肝切除術の技術・デバイスの開発」です。全国でも有数の腹腔鏡補
助下肝切除術の手術経験、研究実績が評価されました。

なお、この技術は高度医療制度の国内第一号でもあります。研究代表者である神戸
市の先端医療振興財団田中紘一先端医療センター長との連携を図りながら、2010
年頃の臨床試験、2012 年頃の商品化を目指しての基礎研究およびデバイスの開発
を行います。

**スーパー
区 岩手医大の技術採択**
岩手医大は十九日、
革新的技術を速やかに
実用化するための先端
医療開発特区(スーパー
技術・デバイスの開発)
「一特区」のプロジェクトに、同医大の「腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術に比べて傷が小さくて済み、入院期間も

H20.11.20 岩手日報

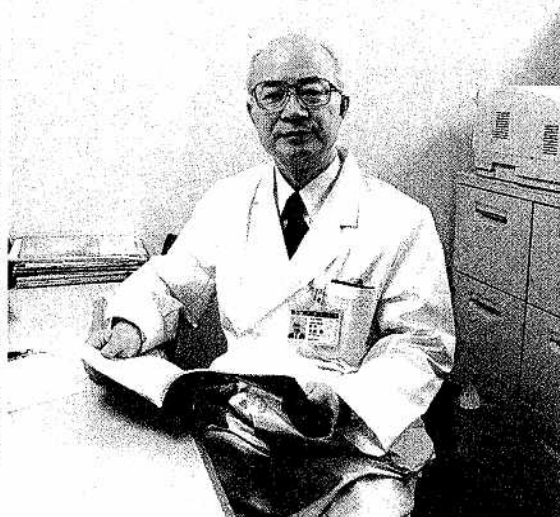
が採択されたと発表し
た。同切除術は肝がん
が対象。通常の開腹
手術に比べて傷が小さ
く、一二年の商品化を
目標に開発を行う。
従来の特区は行政区
域単位での規制緩和だ
ったが、スーパー特区
は同じテーマに取り組
む研究機関や企業のグ
ループが単位。研究資
金を柔軟に運用した
り、規制当局と相談し
ながら医薬品を開発し
たりできる。

日常生活にストレス

糖尿病発症リスク3倍

糖尿病予備軍の人のうち、日常生活でストレスのある人は、ない人の三倍以上発症しやすい。岩手医大内科学講座糖尿病代謝内科分野の佐藤譲教授らは、心理・社会的要因と糖尿病発症との関連をまとめ、英医学誌「ディアベティック・メディスン」十月号に発表した。本県の四十歳以上の40%にも上る糖尿病患者・予備軍の減少に向けた対策づくりに役立つと期待された。

佐藤教授 (岩手医大) **ら英誌発表**



「糖尿病予備軍の人を発症させないための対策に成果を生かしたい」と語る佐藤譲教授

夜勤、管理職も要因に

佐藤教授と盛岡市、西松園クリニックの斎藤恵子院長が共同研究し、同分野の歳弘真貴子医師（現盛岡市立病院糖尿病代謝科医長）がデータを解析した。

二〇〇〇―〇五年、盛岡市内の事業所で働く男性勤労者七百三十二人のうち、糖尿病の予備軍と

た。特に、ストレスのある人は、ない人と比べて三・八倍、夜勤のある人はない人と比べて五・五倍、管理職の場合、管理職でない人に比べて二・七倍発症しやすかった。逆に発症しなかった人の社会的要因としては、事務職であることや非喫煙者であることが挙げられた。それぞれ、事務職でない人、喫煙者に比べ、発症危険率は三分の一となった。

県の〇六年生活習慣病

「予備軍減少の対策に生かす」

される男性百二十八人（平均年齢四九・三歳を対象に経過を観察。平均三・二年で、28・1%が糖尿病を発症、41・4%が予備軍にとどまり、30・5%が正常値に戻った。体格指数（BMI）や脂質、空腹時血糖などのほか、心理・社会的要因など約四十項目を調査した結果、空腹時血糖が高めのほか、日常生活のストレスや、夜勤がある人が発症する傾向にあった。

等実態調査によると、本県の四十一・七十四歳の糖尿病有病者は七万八千人、予備軍は十九万九千人と推定される。糖尿病予備軍を合わせると、対象年齢の40%にも上る。

佐藤教授は「糖尿病予備軍の人の発症を抑えるためには、ストレスのケアや禁煙指導も大切だ、ということが分かった。この結果を今後、県民の健康づくりに生かしたい」としている。

がんの情報、悩み共有



岩手医大付属病院内へのがん患者サロン設置に向け、意見、要望を出す患者の会会員＝5日

盛岡にサロン開設へ

岩手医大や
患者会、県

相談や交流の場に

がん患者への情報提供や相談の場となる「がん患者サロン」開設の動きが、県内で活発化している。岩手医大は盛岡市内丸の付属病院内に整備する方針で、来年三月ごろの開設を目指して準備を進めている。同市内の三

岩手医大が整備するがん患者サロンは、付属病院三階の約28平方メートルの部屋を改装。インターネット環境を整備するほか、がん診療ガイドラインや関連書籍などの備品設置を予定している。患者の要望を反映させるため、同大は十二月上旬に県内の患者会の代表を集めて意見を聞く会を開いた。がんに関心する幅広い活用を想定し、開設する曜日やスタッフの体制などは今後検討する。同病院腫瘍センターの池田健一郎センター長は「がん診療連携拠点病院として、患者の目線に立って支援していきたい」と意気込む。一方、岩手ホスピスの会、かたくりの会、アイリスの会の三団体と県は来年、盛岡市内で「がん患者会によるサロン」を開く予定。常設ではないが、決まった場所と時間に関心し、患者同士の語り合いやスタッフによる傾聴などを行う方針だ。モデル的に開設し、継続も検討する。がん患者サロンは、全国的には島根県の取り組みが進んでいる。

。病院の中に設置する病院型と福祉センターなどで開く地域型があり、同県内では十一月末現在で計二十一カ所開設。同県によると、病院型は医師や看護師ら医療者の専門的な話を聞くことができ、地域型は自宅から足を運びやすいというそれぞれの利点がある。本県内のがん患者や家族の会は十三団体あるが、患者団体に所属していない人も多く、このような人の相談の場はこれまでなかった。がん患者と家族の

「会」かたくりの会の千葉武会長(紫波町)は「患者や家族が交流し、悩みを共有し合う場としてとてもいいことだ」と思う。この動きが県内で広がってほしいと期待を寄せる。

岩手日報ホームページアドレス

http://www.iwate-np.co.jp/cgi-bin/topnews.cgi?20081225_10

眼球残し角膜摘出

岩手医大に新機器

遺族の精神的負担軽減

提供者増に期待

岩手医大(小川彰学長)は六日、盛岡市の同大で記者会見を開き、角膜移植片を作製する医療機器「マイクセラトロン」を使った角膜移植法について説明した。マイクセラトロンは眼球から角膜のみを摘出することができる機器で、同大でも実績を挙げている。献眼者の遺体から眼球全体を摘出する従来の角膜移植に比べ、遺族の精神的負担が軽減され、角膜提供者増加が期待されている。



眼球から角膜のみを摘出できる「マイクセラトロン」について説明する木村桂講師

マイクセラトロンは、直径15mmの円形の刃がついており、刃を回転させて角膜を摘出する。従来は、両眼で約一時間半かかっていたが、約三十分で短縮することができる。同大は二〇〇八年十一月に十例の角膜移植を実施し、従来の移植片作製が同等の移植片作製が可能であることを確認した。

従来は、角膜移植は、献眼者の遺体から眼球全体を摘出し、代わりに義眼を入れる。摘出した眼球から角膜片を作製してため多く

の時間がかかり、遺族の精神的負担も大きかった。

機器は岩手医大眼病センター(アイバンク)登録者で組織する岩手県眼会(佐々木達人会長)が同大に寄贈。一台約二百万円、導入は北東北で初めて。

同会の佐々木会長は「遺族にとって眼球全体の摘出は抵抗があるが、マイクセラトロンを使うことで抵抗が少なくなる。眼球提供者を増やし、マイクセラトロンを役立つ。

アイバンクは、視力障害者の回復を図る目的で、角膜移植手術に使う眼球を摘出し、おっせんする奉仕団体。一九五六年に同大にアイバンクの前身「眼の銀行」が発足、六四年にアイバンクとして正式に発足した。

〇八年十二月末の実登録者数は七千五百七十八人。同三月末は七千六百三十五人で、登録者は減少傾向にある。

てほしい」と話す。

会見には眼科学講座の黒坂大次郎教授、木村桂講師らが出席。黒坂教授は「現在、角膜移植を必要とする人が約六十人いる。アイバンク登録者数が増えることを期待したい」とする。